

大小將組出立并軍役之事

一、組頭羽織、黒羅紗袖なしたるべし。但、羽織のなり襟・ひも、其外はつれづれのもやうは面々心次第之事。

附、腰さしは定之外也。然共羽織を見かくさざるたぐひは可令免除事。

一、番頭指物、小旗緋一幅・長さ六尺、惣紺中白、其内に右左之字、上下に人々の紋金にて可付之事。

一、小將横目指物、六半、白紺石たゝみのごとく三段にいたし、上一段之内白紺兩方へかけて右左の字、其下二段三段のさかひに、面々の紋金にて可付之事。

一、組中指物番頭同前。但六段白き所に右左之字、紺色の内に人々紋金にて可付之事。

一、組頭馬じるし、四半、あかね染、金にて左右之文字可付之。且又出じるし思ひく之事。

附、二本充對にいたし可爲持之事。

一、役旗如定たるべし。まねきはあかく、中白、其内に面々の紋くろく可付之事。

附、旗まねき共にあかね染たるべき事。

一、役長柄是又定之通たるべし。但、組々そへじるしをもて、見わけやすきやうに可仕事。

一、役筒玉目四匁三分之事。

一、具足甲思ひくたるべし。前立物は追而一統之定可有之事。

一、鎗じるし白き馬尾之事。

一、持鑓長短其外もやう心次第事。

一、役足輕指物、二本しなへ長五尺、あかね染中とをり一尺白く、其内に面々の紋黒く可付之事。

一、役長柄之者羽織、一組あて對のしるし、且又主人之紋等可付之事。

一、家禮は馬上歩ものに至まで主人心次第之事。

一、軍役定之通可相守事。

右今度組分以下就改之、當組之軍役出立等之品、隨先制且令潤色相定之訖。堅可存此旨也。

天和二年十一月二日 綱利御印

大小將組頭中

右は天和二年十一月六日、組頭六人共に御前に被召出、

御直に被渡下御印物二卷之寫也。

但、御上包に茂大小將組頭中と御上書有之。

覺

一、大小將共指物、兼而本を申付置候間、爲心得相渡候。追而可致返上候。

一、元和之軍役、加州知と能州・越中知兩様有之故、今之役高心得兼申者も候由聞及候。三四歩兩役に不限、其時により段々役之品有之儀に候得ば、何分にも任下知可申渡候。武具・馬具等は、加州役高之通用意可仕置候。其上之儀は面々心次第候。

一、此度申渡儀に付、親度事有之候はゞ、何ヶ度に而も無遠慮得内意尤候。以上。

十一月六日

大小將組頭中

右は前に有之二卷之御印之物、於御前被渡下、退出以後奥村兵部を以被成下御眞翰之寫也。

一五 御大小將中年頭御禮之事

一、御番頭・御横目は如次第最初に可罷出事。

但、六組入交、其人々如次第候。尤御番頭先、其次御横目たるべし。

一、惣組中は一組切に可被仰付候。來年一番之組初に罷出申候はば、子の年は二番之面々初に可被仰付候。一番は六番之次に可被罷出事。

但、如此に而は、御在國之年被罷出候面々片付申事可有之候間、兩年續候様に可然候歟。左候はゞ當年・來年は何番、來々年・其翌年は何番と可被仕敷之事。

一、一・二之次第は各別之儀にて、其組之尊卑にて無之候間、たとへば兩組之内二三人御目通に罷出候事有之候はゞ、一・二番之次第に不拘、其身之身代并前後之輩にて可被罷出事。

但、組中不殘被召出時は可爲如年始。來春一番之面々初に被罷出候はゞ、來年中は可爲其格事。

以上